

## ◆◆「新しい川崎」メール版◆◆

---2023年8月15日・第85号---

### <目次>

●被爆者とともに、核兵器のない平和で公正な世界を

■市民館・図書館を指定管理にしちゃっていいの？緊急市民集会報告

▲お知らせコーナー

☆8/20 ゆめホールシネマ倶楽部「蟻の兵隊」

☆8/30「ワタシたちハニンゲンダ」緊急上映会

★ 編集後記

●被爆者とともに、核兵器のない平和で公正な世界を

—「原水禁世界大会in長崎 オンライン集会」—

8月7日から長崎で行われた、「原水爆禁止 2023年世界大会in長崎」のオンライン集会(会場は川崎ゆめホール)に、中原原水協・新婦人中原支部・幸支部合同で参加しました。

今年の大会に新婦人中原支部では、会員さんと高校一年の娘さんを代表で長崎に送り出すことができました。

### <核抑止力論からの決別を>

7日の開会総会は、「被爆者とともに、核兵器のない平和で公正な世界を一人類と地球の未来のために」のテーマを掲げて開会しました。

市民、政府代表、被爆者、反核平和団体の代表など多彩な方たちが集まりました。

「核兵器のない世界の実現を！」の声と、「核抑止力論からの決別を！」の声が圧倒的でした。

海外代表は15ヶ国/地域から41名(23団体、2国際団体のNGO代表・個人及び政府・国際機関代表4名)でした。

### <ウクライナ現地からの訴え>

前半は、音が出ないというハプニングでオンライン開催の難しさを痛感しました。

ようやく音が戻って、聞こえたのが「ウクライナ平和主義運動事務局長」のユーリイ・セリアゼンコさんの訴えです。

何よりもウクライナでの、このような平和団体の存在に驚きました。

ウクライナでの実情を伝え、メディアの、報道の在り方へ疑問を投げかけます。

正義の戦争などありません、ときっぱり言い切り、非暴力で達成できる変化をつくり出すのは被爆者や私たち市民社会だと。

戦争も核兵器もない世界を実現する希望を捨ててはいけないと力強く訴えました。

今現在、実際に戦争をしているウクライナからの平和への訴えは強く心に残りました。

ユーレイさんは現地からオンラインでの映像参加でしたが、司会者からこの参加の後、ユーレイさんは拘束されたとの報告があり、会場から驚きの声が上がりました。

主催団体から彼の解放のために働き掛けます、との話がありましたが戦争がより身近に感じられた一瞬でした。

### <台風6号接近、急遽、予定を1日繰り上げた閉会総会>

9日の閉会総会は、大型台風6号の影響を考慮して急遽8日の午後からの開催へと変更。

残念ながら、各分科会も時間短縮や、予定されていたつどいなども中止になりました。

全体を通じて、少なくない海外代表も、ビデオで参加するなど、オンライン集会在ここ数年より有効に活用されていることを感じます。

世界の多くの国からも参加できる、オンラインだからこそそのメリットも大きいと思いました。

8日の閉会総会は、高校生平和ゼミナールや大学生など若者の活動の紹介もあり、これからの運動へ 元気と希望を受け取りました。

大会はオンラインを含め4300人が参加し、最後は「長崎からのよびかけ」を採択し、閉会しました。

新婦人中原支部 藪とみ子

### ■市民館・図書館を指定管理にしちゃっていいの？緊急市民集会報告

<9月議会に、導入制度の延期を求める陳情署名を開始>

「川崎の文化と図書館を発展させる会」は、8月9日に緊急集会を開きました。

川崎市は、9月議会で、図書館・市民館に指定管理者制度を導入する議案を成立させようとして

います。

当日は雨が降ったりやんだりの不安定な天気でしたが、50人を超える参加者がありました。

会の代表の城谷護さんが、腹話術のゴローちゃんとの掛け合いで「指定管理者制度ってなあに？」「川崎市は、なぜそれをやろうとしているの？」など、わかりやすく解説しました。

既に指定管理になっているエポックなかはらで、利用者ではなく指定管理者の都合のよい運営がされている。

市民ミュージアムの台風被害の背景に指定管理の問題がある。

昨年、社会教育委員会議で指定管理について議論させず、頭越しに教育委員会は指定管理者制度の導入を決めてしまった。

等々、次々と問題が指摘されました。

### <会場からも批判が相次ぐ>

・指定管理者制度以前の問題として、川崎市の文化政策はどうか、市民が利用する施設に予算を投じる気がない川崎市の文化度の低さが根底にあるという指摘。

・市民館・図書館への指定管理者制度の導入について、ほとんどの市民に知らされていないことも大問題。

・「社会教育を考える川崎の会」が、7月30日に、教育委員会生涯学習推進課の職員の参加で、説明会を聞きましたが、納得する市民はひとりもいませんでした。

・利用者の立場に立っていない、指定管理者制度導入は、利用者が望んだわけではないのに、利用者の疑問に答える説明をしない。パブコメを募集しても意見は聞くけど反映はしない。

・川崎市は自治基本条例に書かれた住民自治の観点が失われているのではないか。

指定管理者制度の問題は、業者に任せる行政の側の問題でもあり、行政が文化政策をどう進めようとしているかが、根底にある一番重要な問題なのかもしれません。

9月議会に、導入制度の延期を求める陳情署名を開始しました。

でも今は、9月議会までに市民になにができるかです。

「社会教育を考える川崎の会」と「川崎の文化と図書館を発展させる会」は、それぞれで、「9月議会での導入は延期し、利用者である市民と十分に協議することを求める陳情署名活動を行います。

まずは市民の関心を広げるために、2つの署名活動にご協力をよろしくお願いいたします。

川崎の文化と図書館を発展させる会

岡本正子

### ▲ お知らせコーナー

#### ☆ゆめホールシネマ倶楽部「蟻の兵隊」

8/20(日) かわさきゆめホール

① 9時 ② 12時 ③ 15時

一般:1000円 障がい者:500円 学生以下:200円

当日:各 500円増

お申込み:044-433-3003 かわさきゆめホール

#### ☆西加瀬巨大物流センターを考える住民集会

8/26日(土)19時～20時半

荻宿小学校特別教室

近隣住民でなくても、この問題に関心のある方はぜひご参加を！

主催 巨大物流センターを考える住民の会

連絡先 広瀬忠雄 044-433-7948

#### ☆「ワタシタチハニンゲンダ」緊急上映会

外国人学校に対する官製ヘイト、技能実習生、難民、入管の実態など

外国人差別の本質にせまる

8/30(水)18時半より

一般:500円\_学生以下無料

問合せ:090-1458-3102(柴田)

## ★ 編集後記

今日、8月15日は「終戦記念日」とされています。

時系列で言うと、7月6日、米英中に依るポツダム宣言の発表。

8月14日、日本がポツダム宣言の受諾を決定し、連合国側に通知。

8月15日、ラジオを通じて、天皇がポツダム宣言受諾を国民に知らせる。

9月2日、降伏文書に調印・即時発効。

9月8日、サンフランシスコ講和条約。日本と48の連合国が調印。(中国、ソ連などを除く)

端的に言えば、天皇が降伏することを宣言した日であり、「終戦記念日」という命名には違和感を拭えません。

さて、この政府の決定に反して、中国残留を軍から命令され、約2600名の兵士が山西省に残留し、国民党軍に合流し、4年にわたって共産党軍との内戦に巻き込まれます。

しかし、日本政府は、彼らを脱走兵として責任を転嫁、元残留兵らが求める戦後補償を拒み続けます。

”日本軍山西省残留問題”の真相解明に挑む元兵士の姿と葛藤を追うドキュメンタリーが2005年に製作された「蟻の兵隊」

戦争の残虐性と、矛盾、理不尽を改めてかみしめたい映画です。(Y)

☆☆チェンジかわさき！☆☆

川崎民主市政をつくる会

〒211-0011 中原区下沼部 1880

お問い合わせ

[mailmag@newkawasaki.jp](mailto:mailmag@newkawasaki.jp)

公式ホームページ

<https://newkawasaki.jp>

☆☆チェンジかわさき！☆☆

配信を希望されない方は以下をクリックしてください。

自動的に登録を解除します。

[https://my922p.com/User/cancel\\_mail/fMwwpqj4/bqRwh7nWIDjB?mail=talosxxx%40gmail.com](https://my922p.com/User/cancel_mail/fMwwpqj4/bqRwh7nWIDjB?mail=talosxxx%40gmail.com)

誤って登録解除した場合、以下までご連絡ください。再度登録します。

[mailmag@newkawasaki.jp](mailto:mailmag@newkawasaki.jp)